

ぜんちないぐは、ながいはな  
をもっていました。そのはな  
は、ごろくすんもあって、くち  
のうえからあごのしたまでたれ  
さがっていました。

あるひ、ないぐはどうしてもこ  
のはなをみじかくしたくなりま  
した。

「ひとにわらわれるのは、もう  
たくさんだ。」

あくたがわりゆうのすけ「はな」より